

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念は、管理者中心にし、スタッフ全員で考えた中で決めました。この中で「地域との結びつきを大切にします。」を常に心がけ日々のケアにあたっていきます。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ホーム内に理念を掲示しています。スタッフそれぞれ確認し合う中で、ケアプラン作成時やカンファレンス時など、理念の振り返り、及び実践を心がけています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族とのコミュニケーション、お便り、又運営推進会議の中でお伝え出来る様努めています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>挨拶はもとより、入居者との散歩中にも気軽にお声をかけて下さったり、立ち話しをするなどの交流があります。畑で採れたイモをお裾分けしたり、又そのお返しにと他の物を頂く事もあります。夏祭り、クリスマス会など、ご近所の方にもご案内し多くの方が参加下さいました。</p>	<p>現在は大きな行事のご案内になっていますが、今後は月1回のお茶会など計画しご近所の方が気軽に立ち寄りその中でコミュニケーションをより深めたいと思っています。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会行事(新年会、敬老祝賀会、ふれあいサロン)又地域、小学校、保育園の運動会などにも、積極的に参加させて頂いています。</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>今現在はホームに入所されている方々に、よりその方らしい生活をして頂くにはと考え、ケアに活かしていく事に精一杯な日々です。地域にいらっしゃる高齢者の方々にまで、思いが至らないのが現状です。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を行う中で、客観的に見つめ直す事が出来、今ある課題を見つけ出す事が出来ます。職員間での話し合い、課題解決に近づけるなど見直し、改善に努めています。		
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	様々な意見や評価を頂いております。その中で例えば冬期間の避難場所に不安がある、とご指摘を頂いたときは、除雪に関してバックアップ施設等と協力し改善致しました。今後も皆様のご意見を反映し、よりよいサービスの向上を目指したいと思います。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	担当の地域包括支援センターへ会議のご案内及び、議事録をお持ちする時等、お伺いしご意見、ご助言を頂いております。		今後もより密接な連携強化が図れる様、積極的に情報提供、出来る様努めていきたいと思ひます。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	外部研修及び、社会福祉協議会等へ話しを聞かせて頂く事で知識、理解が深まる様、努めています。		全てのスタッフが、周知出来る様、内部研修に取り組み、必要と思われる方にはきちんとお伝え出来る様、積極的に働きかけていきたいと思ひます。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	外部研修に参加し学ぶ機会を持っています。又日々のケア及びカンファレンス時には、身体拘束他、あらゆる虐待の話し合いを持つ中で知識を深め注意防止に努めています。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約の際、こちらからの説明を十分に行い、又ご家族からの不安、ご心配な事などゆっくり耳を傾けお話を聞かせて頂いております。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者のご意見等は、顔なじみのスタッフが会話の中からさり気なく引き出すなどしています。又、それを反映出来る様、努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んできたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	1,2ヵ月に一回ご家族へのお便りの中で、ご報告させて頂いたり、又必要に応じて電話でお伝えしています。又ご家族の面会時及び、家族会、運営推進会議後のお茶会時、パソコン制作の写真アルバム、又ビデオなど見ていただき日々の暮らしぶりを知って頂ける様に努めています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居契約時に苦情についての説明をさせて頂き、重要事項説明書の中でも明記しております。又、第三者への苦情申し立てが出来る様ホーム内に掲示してあります。苦情が寄せられた場合は速やかにカンファを行い発生原因を分析、検討しサービス改善に努めさせていただきます。又玄関先に意見箱を設置しております。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。			
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	それぞれの状況に応じた柔軟な勤務調整を行っています。例えば、退院したばかりで転倒の危険性が、一時的に高くなった入居者の方がいらした時、その方が活動されている時間はスタッフ数を増やして事故防止に努めております。(時間外にて対応)		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者及び職員共に異動、離職は最小限であり又異動があった場合は入居者の方々に不安を抱かせない様努めています。(介護経験のある方でも、入居者との関係性が出来てないうちは、すぐに一人夜勤を組まない等)もし突然の管理者異動などある場合は、ご家族へお電話等で報告しています。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修には積極的に参加しています。又研修受講者は研修報告書を提出し職員全員が目を通せる様にしています。又愛全会グループ内で連携を図り研修を企画、参加して自己研鑽に努めています。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北海道認知症高齢者グループホーム協議会員として研修等に参加、交流しております。又南区グループホーム管理者連絡会ではスタッフ交流会を年一回設け交流を図っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休みや年休は勤務に差し障りない程度にできる限り希望に沿うようにしています。また、年に数回親睦会を行い、ストレス解消に努めています。		
22	向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	外、内部研修に参加出来、熱意を持って働ける環境にあります。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学にいらした折など、ご本人からのお話を意識的にお聴きしたり、入居前には必ずお会いしお話を聴きする様努めております。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	お話をゆっくりとお聴きする時間を設け、ご心配、不安な事を出来る限り解消し安心してご利用して頂ける様努めています。ご来訪が、難しいご家族の方へは、ご都合がよろしければお宅へお伺いさせて頂いています。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その方が、今必要と思われる社会資源の情報をお伝えしたり、ご希望があれば愛全会グループホーム事業室よりグループ内の他ユニット他施設在宅等のサービス情報提供を行っています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービス利用前に徐々に馴染んでいただく事は現在しておらず、すぐに入居されている現状です。ご入居頂いてからにはなりますが、徐々に馴染める様、ご家族とも連携を大切に努めています。		ご入居前に何度かお遊びに来て頂いたりショートステイを利用して頂いたりご要望に応じ検討させて頂きたいと思っております。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>入居者の方と家事をする中で、調理方法を教えて頂いたり、ことわざ、漢字のレクリエーションを行う中でも、その意味など教えて頂く事も多くあります。又、楽しい時には共に笑い帰宅願望などが強く不安に思われている時はその方の気持ちに寄り添い、共感出来る様心がけています。共に学び、共に過ごす中でより深い信頼関係が築ける様努めています。</p>	
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族の皆様には、ご本人の様子、状態を出来るだけ詳しくお伝えするようにしています。又、ご本人にとって何が必要なのか、良いのかをご一緒に考える事が出来る様努めています。</p>	<p>ご家族にとってより身近なホームづくりを心がけ、信頼関係を深めて行ける様努めていきたいと思います。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>ご家族の皆様とのコミュニケーションを大切に、少しでもお力になれば、と考えています。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご家族をはじめ、身近なご友人の方などが気軽に、来訪して頂けるような環境づくりや、ご本人の懐かしい場所へ出来るだけお連れ出来る様、支援しています。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>入居者同志の相性、自発性、役割を考慮しながら、その関係を大切に見守りながら互いのストレスにならない様交換するなど、支援しています。又対人関係が苦手な方でも共通の趣味を楽しめる様、設定し自然に皆様の輪の中に入って頂ける様心がけています。又、自室に引きこもる事のない様リビングでの充実した時間を過ごして頂ける様心がけてご自分から皆さんのいる所に行きたいと思って頂ける様努めています。</p>	
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>現在、契約終了となった方で持続的な関わりを必要としている方はいらっしゃるかもしれませんが、退去後の移動先へ面会に行かせて頂いたりご家族の方とお逢いした時は気軽にお声をかけて頂くなどし、ご本人の近状を聞かせて頂くなど皆様との良い関係を持続出来る様、心がけています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の生活の中からご本人の思い、話しを大切にしています。又、上手く気持ちを表現する事が出来ない方についても、表情、行動の中からスタッフ全員でカンファレンスの際など話し合い又、ご家族からお話をお聞きする事により、どのように暮らして頂くのが良いのかなど、お一人々のご希望を把握出来る様、努めています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>ご本人、及びご家族、近しい方々が来訪して下さった時など差し支えない程度にお話をお聞きしながら把握に努めております。又、ご家族にセンター方式Bシートをお渡しして協力を得て把握に努めています。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>一日の流れやその場面での表情、行動等、記録し把握に努めております。</p>	<p>アセスメントに順次センター方式を取り入れより深い把握に努めます。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ご家族の方にもご意見を頂きながら、ケアプランに反映出来る様、努めています。又月一回のカンファレンス時に介護支援専門員と共にスタッフ全員で話し合いケアプランを作成しています。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>三ヶ月に一回だけの見直しではなく、月一回のカンファレンス時に再度のモニタリングをし状況に応じ評価見直しを行っています。又、入、退院時による心身の変化、身体、心理状況の変化に応じて随時見直し、もしくは新たな物を作成しています。</p>	
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やけあの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。</p>	<p>入居者の方、お一人々のケア実践結果、ご様子等個別記録に記入しスタッフ全員で共有する事で次回の評価につながる様、努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	入居者の皆様が、楽しめる様にと、手品、ダンスをして下さるボランティアの方、又その他にもお話し相手をして下さるボランティアの方がいらっしゃいます。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービスのご利用を希望されたり必要とされる方は現在いらっしゃらないと認識しています。		もしも、ご本人、ご家族よりご希望があった場合は、他事業者、ケアマネの方と相談し柔軟に対応出来る様、努めます。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は、包括支援センターの職員の方とは、地域運営推進会議での関わり行事参加下さるだけの関わりです。		ご本人、ご家族の方よりご希望があれば、包括支援センター職員の方に相談させて頂き、随時柔軟に対応出来る様努めます。又協同支援がすぐに実現出来る様、包括支援センターとの関係づくりに努めます。
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週1回訪問看護ステーションより看護師が健康相談として来訪下さっており、気兼ねなく相談できる体制です。また、電話対応も24時間可となっているため必要時にはいつでも相談できます。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	幻覚等、強い方などは専門医を受診し、かかりつけ医とも連携を図りながら認知症の診断治療が出来る様、支援しています。又都度相談させて頂いています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいた項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週一回契約している訪問看護ステーションより看護師が訪問下さり、入居者の方の日常的な健康管理をして下さっています。又24時間オンコール対応でスタッフの不安、疑問に対応して下さっています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には情報提供書の他必要であれば口頭で病院関係者とお話出来る積極的に関わりを持つ様努めています。又医師とご家族のお話合いの時には、管理者も参加しております。急性期治療を必要としなくなりホームでのリハビリが有効と判断した時には積極的に退院を提案させて頂いています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化を目の当たりにしている入居者の方に対しては、ご家族、医師との相談は繰り返し行い全員で方針を共有出来る様努めています。現在介護が軽い方々に対しては、重度化、終末期のあり方について話し合っていない現状です。		重度化、終末期に向けご家族、かかりつけ医との話し合いが出来る様努め、事業所の対応を明確にした上で、終末期に関わる意思確認書の作成にも取組んでいきたいと思います。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化されてきたご入居に対しても出来るだけの支援を行える様努めています。例えば、かかりつけ医に相談し薬を見直す。又ご家族の同意のもと、センサーマット、ポータブルトイレの設置をする事でリスクを最小限に抑え今現在の生活を少しでも長く持続出来る様、取り組んでいます。又、重度化にともなうリスク今の状況などご家族に説明しご理解頂ける様努めています。		
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	移り住む際は情報提供を事前に行い、必要があれば電話連絡等、口頭での情報交換が出来る様努めています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	それぞれの居室へ入室する際は、事前にお声をかけ、ノックをし了解を得た上で入室しています。又人生の大先輩という気持ちで敬意を持ち接しトイレ誘導時なども他の方に気づかれない様、さり気なく声かけしています。又実習生などに、記録など参考に観覧して頂く時も個人名を消し個人が特定出来ない様、配慮しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者それぞれのお力に合わせ、例えば服を選ぶ際も全てご自分で出来る方には、その意志決定を尊重し又それが、難しい方にはスタッフが2,3点ご用意した中で、選んで頂ける様に配慮しています。又レクリエーションなども、一方的にこちらが決めるのではなく、テーブル上にいくつかご用意した中から、ご自分の興味のある物を選んで頂ける様な環境づくりをしています。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の方の気持、ご希望を出来るだけ優先して日々暮して頂けるよう努めています。例えば、お散歩へ行きたい、ご自分の物を買いたい、入浴したいなど、可能な限りご希望に添える様、努力しております。しかし、受診対応、夜勤帯でのご希望に対しては、こちら側の都合で、ご希望に添えない場合もあります。		リスクを考慮しつつ出来る限りご希望に添う努力、工夫をしていきます。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	現在は皆様のご希望により移動美容室を定期的にご利用になりそれぞれお好みのヘアスタイルを楽しまれています。又外出時はご本人の意志を尊重しおしゃれ着をお召し頂いたり鏡を見ながら口紅を引いて頂いたりしています。又おしゃれに関心が強い方にはお風呂上がりにカーラー巻きをセットしています。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	スタッフと一緒に買い物へ行き、食材を選んで頂いたり、一緒に楽しく調理したり又盛り付けがお得意の方、お茶入れ、テーブル拭きをして下さる方などそれぞれの役割に合わせ負担になることなく生き々とした活動の場となる様、心がけています。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在は、たばこ、お酒を日常的に飲む方は、いらっしゃいませんが行事などでお酒をご用意したり楽しんで頂いています。又飲み物も数種類ご用意しお好みの物を選んで頂ける様、支援しています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	失禁が目立って来た方には、すぐにパット、おむつに移行することなく、さり気なく下着交換を促す事から始め必要に応じて泌尿器科への受診を行い、失敗体験を増やさぬ様、排泄パターンをアセスメントトイレへの声掛けを行う様にしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご本人のご希望に合わせて、入浴して頂いています。(現在は、ご自分から希望される方が少なくこちらの声かけさせて頂くことが多いです。)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	薬に頼ることなく、その方の行動量、水分量、排泄リズムを整えリズムのある生活ができるよう努めております。またなかなか寝付けない方などは足浴や温かい飲み物をお出しするなど工夫しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	それぞれのお得意な事、その方にあった余暇活動を支援させて頂いております。生活歴を踏まえて和裁が生活の一部だった方には刺し子を、また編み物が得意な方にはマフラー、靴下などを作って頂いたり家事中心の生活をされてきた方には食事の支度を一緒にして頂く事で充実、達成感を感じていただけるよう努めています。また歌やお話が大好きな方には一緒に歌ったりお話をしたりと対応しています。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の了解のもと希望される方は、ご自分でお金を所持し、また、お好みの化粧品など購入されています。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日常的に散歩、買い物、ドライブなどして外食、お茶を飲み喫茶店へと気軽に出かけられるよう、努めています。また、暖かい日には積極的に外でのお茶会も行っています。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	春はお花見、夏はドライブ、秋はお寺、等々季節に合わせお出掛けしております。		重度化や、転倒リスクの高い人が増えている現状の中、以前の様に皆様で気軽にお出掛けができなくなってきてますが、安全を考慮し、リスクマネジメントをしっかりと行い、できる限りこれからも皆様のご希望に添えるよう、努めてまいりたいと思います。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があれば電話を利用して頂けます。またホームからのお便りにご本人が近況などを書いて頂いたりしています。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでもご来訪頂けることができ、ゆったりと過ごして頂けるよう配慮しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	カンファレンス時、及び日々のケアの中でスタッフ皆が身体拘束の禁止の対象となる具体的行為を伝達し理解を深める事に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は施錠せず自由に出入りできるようにしています。安全上やむを得ず施錠する場合は短時間にとどめています。また、服装チェック表を用いて行方不明防止に努めています。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	キッチンで調理の際もリビング全体を見渡す作りとなっています。記録、お茶を召し上がる時なども入居者の方と一緒におり、自室にいらっしゃる時も失礼のないよう定期的に巡回を行い、安全確認を行っています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や包丁、塩素漂白剤等はまとめてかぎのあるところで保管し、事故防止に努めています。しかし花、室内のテーブル、ソファ、じゅうたん等生活を潤すものや馴染みとなっている生活用品に注意が必要となってきた場合にもすぐになくすのではなく、巡回を多くし見守りを強化して対応しております。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	内部研修等で救急対応を学ぶ機会を設けたり、薬の取り扱い、マニュアルを作成をしたり行方不明防止のためにスタッフ間のチーム連携の大切さを日頃から意識することで事故防止に努めています。事故が起きた場合もすぐに原因、今後の防止策をその日の日勤で話し合い、全体に周知徹底するよう努めています。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時の対応マニュアルを作成し急変や事故発生時に備えています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年1回避難訓練を行っています。また地域の方へ日頃からのコミュニケーションを通じて協力体制をお願いしています。また消化設備の定期的な点検、見直しを行い防火マニュアルを作成し有事には皆様を安全にお守りできるよう努めております。そのためにはより地域との連携が必要だと感じています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいた項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	現在の状態をお伝えすると同時に今後起こりうるリスク等をご説明し了解を頂いております。しかしリスクの危険があるからと消極的になることなく事前の計画・対応するスタッフなど検討しリスクマネジメントを行いながら積極的に外出等をして頂けるよう努めています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に顔色、表情、行動等いつもと変化がないか接する中で、観察を行っています。又、必要に応じてバイタル確認、訪問看護師、医療機関、及び管理者への相談、報告を行う体制になっています。速やかな対応が出来る様努めています。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局より薬の名前、効能、副作用が示された用紙をもらい、スタッフ全員が目を通し、変更があった場合は個人記録、連絡ノートに記載し周知徹底しています。又、変更時は観察を密にし変化があればすぐに医師に報告、相談を行っています。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日常的に水分を多めに取って頂ける様、心がけたり、又散歩、ホーム内も歩いて頂くなど、身体を動かす工夫を行っています。その上で便秘気味の方には整腸剤や下剤を使用して頂くこともあります。排便の非候から落ち着きがなくなるなどの行動障害が強くなったりする事をスタッフ皆が理解し、その方それぞれの行動パターンを知る事でトイレ誘導へつなげる事でトイレで排泄して頂ける事がほとんどです。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ご自分で出来る方は声かけ見守りを行い、誘導が必要な方は食後に洗面所へご一緒に歯磨きして頂ける様、促しています。介助が必要な方には、ご自分で頂いた後に、自尊心を傷つけない様、介助しています。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方それぞれに、飲みやすいコップでお出しするなど工夫し又、スタッフも一緒に水分を取る事で、さり気なくモデリングを行うなどし、水分量の確保出来る様に工夫しています。水分チェック表を用いて一日の水分量の把握に努めています。又、必要な方には食事量を記録し栄養が確保出来ているか確認します。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し毎日のうがい手洗い、手すりや蛇口等の塩素消毒など、日頃から実践しています。又、勉強会やカンファレンスの中で情報を共有したり注意を呼びかけたり等、感染症予防の意識を常に持つ様、意識しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	ふきんは一度使用した物は、消毒しています。まな板、台所もこまめに塩素消毒を行って、食器、箸、ミキサー等は食洗機で高温洗浄しています。食品の鮮度にも最重視し作った物も盛り付けまではすぐに冷蔵庫で保存する様、スタッフ間で注意し合ったりカンファレンス等で常に食中毒予防の意識を高く持つ様、喚起しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周り、玄関内には季節の花々を飾り温かな雰囲気作りをしています。気軽に入居者の方が外気浴、日光浴にご利用して頂ける様、又近隣の方が立ち寄ったり一休み出来る様ベンチを設置しています。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	キッチン是对面式になっており皆様とおしゃべりを楽しみながら家事が出来ます。又リビングには常に季節感を感じて頂ける様、正月はくす玉、節句には、もも花、夏はほうずき、十五夜にはすすき等を飾ったりしています。又懐かしい歌や童謡などを流し一緒に口ずさむなど、家庭的で優しい時間を一緒に出来る様、工夫しています。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング内には、ソファを置き気の合う方が自然に集える様な環境になっており、又1、2階共に本棚を設置し、それぞれのフロアにて座ってゆったり過ごして頂きながら読書を楽しんで頂ける様、工夫しています。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族の方のご協力を頂きながら、仏壇や使い慣れた家具など、ご持参されています。又今までの生活に近い様に居心地良く過ごして頂ける様な工夫をしています。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	こまめに喚起を行い室温、湿度の調整にお努めており、冬は加湿器を設置し湿度の確保に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内の階段は穏やかな傾斜で滑り止めが付いており又、廊下等には、手すりを設置しています。二階ロビーでのお茶会などで一階に居室がある方も、階段を利用して頂く事で自然と筋力維持を行っています。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>何が出来て、何が出来ないのか、何を支援すれば良いかを把握し出来る事を大切に自発的な気持ちを持って頂ける様、声かけ等、意識的に行っています。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダには花を植え、いつでも見て楽しめる様に又、椅子、テーブルを設置しゆったり過ごして頂ける様になっています。又、夏場は物干しにて入居者の方とご一緒に洗濯物を干したり取り込んだりしています。又、家庭菜園が出来る畑が有り、楽しみながら手入れや収穫が出来る様になっています。</p>	

サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3(くらい) 利用者の1/3(くらい) ほとんど掴んでいない	ご本人の言葉や行動、ご家族のお話などを大切にしております。また1ヶ月に1回カンファレンスの話し合いの中で、ひとつの視点ではなく、スタッフ皆で入居者皆様のご意向、ご希望を把握することに努めております。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	おやつや食事の時間など一緒にテーブルを囲み団楽を楽しんでおります。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3(くらい) 利用者の1/3(くらい) ほとんどいない	皆様思い思いに過ごされております。また重度の方は様子や行動から察するようこころがけ、必要時にはこちらから働きかけております。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3(くらい) 利用者の1/3(くらい) ほとんどいない	職員の支援だけではなく、入居者の皆様が互いに支えあってほほえましい場面もよく見られております。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3(くらい) 利用者の1/3(くらい) ほとんどいない	月に1～2回はお食事や喫茶店などへお出かけしております。また、お買い物や外気浴なども積極的にしております。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3(くらい) 利用者の1/3(くらい) ほとんどいない	かかりつけ医や訪問看護師にいつでも相談できる体制です。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3(くらい) 利用者の1/3(くらい) ほとんどいない	安全を考慮した上で可能な限りご希望に沿うよう努めております。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2/3(くらい) 家族の1/3(くらい) ほとんどできていない	ご家族が来訪されたときや、お電話等でお話をゆっくりとお聴きするよう努めております。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	長年来訪下さってすでに顔なじみとなっているボランティアさんやご近所の方などがお見えになっております。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない	町内会長さんや町内の役員さん、ご近所の方々とは運営推進会議が始まった頃、またはそれ以前からご理解いただくようになっておりますが、それ以後新たには増えておりません。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3(くらい)が 職員の1/3(くらい)が ほとんどいない	毎日これでいいのだろうかかと頭悩ます日々ではありますが、積極的に互いに話し合い切磋琢磨をしながら日々ケアの質の向上に努めております。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3(くらい)が 利用者の1/3(くらい)が ほとんどいない	毎日入居者の方々から元気をもらっております。皆様の笑顔が答えだと信じております。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3(くらい)が 家族等の1/3(くらい)が ほとんどいない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
入居者の方々ができる限り今持っている力を発揮できるよう、様々な働きかけを行っております。また、「一緒に、楽しく、ゆっくと」をモットーに一緒に笑い、一緒に楽しみ、時には悩んだり不安を抱えている時にはそっと心に寄り添えるよう努めております。充実した暮らしを送って頂ける様、また皆様にとって、いちばん安心できるひと、場所として感じていただけるよう日々努力しております！